

斑点米カメムシ類対策は、除草が基本です

斑点米カメムシ類（写真1）は、イネ科植物の種子を好み、本県には数種類生息しています。水田内や水田周辺の雑草は斑点米カメムシ類の発生源や本田内へ侵入するための中継点になりますので、カメムシ類の生息しにくい環境を整え、斑点米の発生を防ぎましょう。



左から
クモヘリカメムシ
ホソハリカメムシ
アカヒゲホソミドリカスミカメ
アカスジカスミカメ
(線の間隔は1mm)

写真1 斑点米カメムシ類

クモヘリカメムシやホソハリカメムシは体が大きいため、玄米に比較的大きな斑点が発生します。カスミカメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメなど）は、口針が細く、籾を刺すことができないので、籾の隙間から吸汁します。開花期から登熟期にカスミカメムシ類が吸汁すると、玄米の頂部や側面に斑点が発生します（写真2）。



写真2 玄米の頂部や側面に発生した斑点

防除対策

[1] 水田内の除草

○水稲の出穂前に結実するホタルイ、ヒエなどは、斑点米カメムシ類の飛来場所になりますので結実前に除草しましょう。

[2] 水田周辺の除草

○農道や畦畔イネ科雑草、水田周辺の雑草地は斑点米カメムシ類の発生源になるとともに、カメムシ類が水田内へ侵入するための中継点になります。イネ科雑草が結実する前に除草を行いましょう。

なお、出穂期直前の除草は、水田へ斑点米カメムシ類を追い込むことになるので、水稲の出穂期10日前までに済ませましょう。

○畦畔をイワダレソウなどのカバープランツで被覆することにより、除草の手間をはぶくことができます。

[3] 農薬散布

○穂ぞろい期に斑点米カメムシ類が水田内に確認できる場合は、乳熟初期（出穂期7～10日後）までに農薬を散布しましょう。散布後もカメムシ類が確認できる場合は、7～10日間隔で1～2回の追加散布を行いましょう。

水稲のカメムシ類に登録のある農薬

| 農薬名 | 希釈倍率等 | 使用時期／使用回数 |
|-----------------|---------|---------------|
| MR. ジョーカーEW（蚕） | 2,000倍 | 収穫14日前まで／2回以内 |
| スタークル液剤10（蚕） | 1,000倍 | 収穫7日前まで／3回以内 |
| スタークルメイト液剤10（蚕） | 1,000倍 | 収穫7日前まで／3回以内 |
| トレボンEW（蚕） | 1,000倍 | 収穫21日前まで／3回以内 |
| アルバリン粒剤（蚕） | 3kg／10a | 収穫7日前まで／3回以内 |
| スタークル粒剤（蚕） | 3kg／10a | 収穫7日前まで／3回以内 |
| スミチオン乳剤 | 1,000倍 | 収穫21日前まで／3回以内 |

注1）（蚕）は蚕に対する毒性が長期間にわたる薬剤。

注2）登録内容は平成20年3月12日現在のものです。

● 本資料に関する問い合わせ先：栃木県農業環境指導センター ●

TEL 028-626-3086 FAX 028-626-3012